

岩手郡医報

平成 8 年 7 月 No.53
 編集 発行
 岩手郡医師会
 題字 雪石町高橋孝先生



流木？

好きな人には目に付くのか、三内丸山遺跡（青森県）を見学に出掛け、孫たちに引かれて浅虫海岸を歩いていたら、写真の流木が目に止った。拾ってみると、あれの後の男性の姿勢を思わせる形だった。

ニヤリと笑い波打ち際に捨てた。

流れた流木がひっくりかえり、後ろにトラベチウスを思わせる木目があった。

なにか自分が捨てられるような気がして再度拾って持ち帰った。

「愛の後で」とでも名前をつけて、いつまでも若くある様に祈る神としてでも側に置こうと思っている。

（雪石町 高橋 孝）

目次

流木？	1	懇親会兼秋浜先生受賞祝賀会	10
岩手郡医師会通常総会会長挨拶	2	研究報告	
報告	3 ~ 6	岩手町における最近 5 年間の悪性新生物の 発生状況 渡辺恒雄	11
協議		第 5 回岩手郡医師会ゴルフ愛好者の集い	12
弔慰金、見舞金について	7	随想	
議事		ネーお祖父ちゃん今月どうしてこんなに 残業が多いの？ 高橋 孝	14
平成 7 年度・一般会計決算書	8	新入退会員紹介	15
平成 7 年度・休祭日当番医決算書	8	岩手郡医師会理事会	16
平成 7 年度・特別会計決算書	9	岩手郡医師会役員会	16
監査報告書	9	編集後記	16
学術講演			
「胸郭出口症候群」	10		

社団法人 岩手郡医師会通常総会



1. 開 会
2. 出席者の確認（会員82名中、出席23名、委任状38名）
3. 議事録署名人選出（近藤純造先生、吉島一夫先生）
4. 会長挨拶
5. 報 告
 - (1) 各担当部門別の報告

1) 総務	6) 福祉
2) 保険	7) 広報
3) 産業保健	8) 勤務医
4) 学校保健	9) 健康教育
5) 労災保健	10) 生涯教育
 - (2) 岩手県医師会関係
 - 1) 理事会について
 - 2) 診療所部会監事会・有床診察所協議会
 - 3) 臨時代議員会について

日時 平成8年7月6日(土)午後4:00
場所 盛岡市駅前通り
ホテルメトロポリタン盛岡

- 4) 第48回県医師会総会・第96回岩手医学会春季総会
- 5) その他
6. 協 議
 - 1)弔慰金・見舞金について
 - 2)その他
7. 議 事
 - 1) 平成7年度岩手郡医師会一般会計決算書の承認を求むる件
 - 2) 平成7年度岩手郡医師会休祭日当番医決算書の承認を求むる件
 - 3) 平成7年度岩手郡医師会特別会計決算書の承認を求むる件
- 4) 監査報告
8. 閉 会
9. 学術講演
演題『胸廓出口症候群』
講師 岩手医科大学教授
阿部 正 隆 先生
- 座長 岩手郡医師会副会長
西島 康 之 先生
10. 懇談会兼秋浜晃先生受賞祝賀会

[会長挨拶の要旨]



高橋 会長

開かれた医師会、会員参加の医師会をめざし、会員相互の「和と協調」を旨に会務の運営を図りたいと、歴代会長は口をそろえて申しておりますが、長い歴史のある医師会であります。なかなか思うような現状にはならないというところのよ

うであります。

地域医師会の使命は地域住民に良い医療を提供することにあると考えます。医療の基本は学術にあるので生涯研修体制を充実させると共に、病診連携、診診連携を推進し、少しでも良い医療を住民に提供することによって地域医療への貢献となるわけです。

診療報酬改定の度に、医療機関の運営は苦しくなり、さらに消費税、事業税問題など厳しい情報が聞こえてくる現在、日医・県医からの情報を正確に地域の会員に提供し、会員

の判断を誤らないようにすると同時に会員の率直な意見を日医・県医に伝えなければならぬ。

診療報酬改定の度に、医師会の非力を訴える会員が多い。日本医師会は今よりさらに強い指導力と政治力を持ち、政府に影響を与える強い医師会になってほしい。坪井新執行部には大いなる期待がもてます。

私たちも、政治的視点がますます必要となります。政治から目をそらすべきではない。にもかかわらず医師会においても政治嫌い、政治不信、政治的無関心が拡大しているのではないでしょうか。代議制民主主義の最大の欠点が、代行主義、代理主義的感覚が蔓延することであるならば、それを払いのけるために医師連盟の活動方針の明示こそがキーポイントではないか。

その他

「医療保険制度改革」

「介護保険」

「消費税」

「医療法改正」

「新指導大綱」

などについて説明を加えた。

報 告

◇総務



及川理事

理事 及川 忠人
平成8年3月2日の岩手郡医師会臨時総会の後に行われた総務関係諸行事についてまずご報告申し上げます。
新年度になり役員会・理事会が3回、総務会が3回開催されております。

また6月30日に第48回岩手県医師会総会・第96回岩手医学会春季総会が陸前高田市のキャピトルホテル1000で開催されております。

今後の大きな行事としては7月下旬に徒步旅行などの保健体育事業を開催予定であり、さらに8月25日(日)には北上市で県医師会親睦野球大会が開催予定であります。また9月15日には宮古医師会担当で県医師会ゴルフ大会が開催される予定です。

総務の大きな担当のもう一つとして緊急災害対策がございます。例年9月9日の「救急の日」を中心として諸行事が開催されますが、救急災害対策綱領の見直しが必要であり、各地方自治体との協議会を開催予定であります。

またこれに基づいて、各町村間の緊急連絡網の整備等を含む急務の問題等がありますので、これらの件に関して各種の調査やそれぞれの地域の先生方の意見を参考にして今後の具体的検討を勧めて参りたいと考えております。活発なご意見をいただければ幸いと存りますのでよろしくご協力をお願い申し上げます。

◇保険



佐々木理事

理事 佐々木 久夫
平成8年4月1日より実施された、2つのことについて報告します。

I 平成8年度診療報酬改定について

今回の改定は、中医協による平成7年12月の意見をふまえて実施されたものですが、国民経済の低迷という厳しい背景のなかで、国民医療の質的低下をきたさないようにとの方針で改定されました。主なものとして

- 1) 医療機関の機能分担
- 2) 心身の特性に応じた医療の推進
(小児外来医療・老人慢性疾患の包括化)
- 3) 薬剤の情報提供
- 4) 基本的医療技術の評価
(初・再診料のup)
- 5) 多剤投与の制限
- 6) 在宅医療の推進

[尚、詳細は日本医師会雑誌第115巻(6/15)(P2055~2059)参照のこと]

II 新指導大綱について

高点数が即「悪」とは考えていないというが、今回の集団的個別指導の対象は、高点数順に選定される。

各科別、類型別(診療所11区分、病院4区分)の岩手県の平均点(公表される)の一定割合(病院は1.1倍、その他は1.2倍)を超える保険医療機関が対象となる。

詳細については7月初めに岩手県医師会より、会員全員に「いわて医報No.541、保険だより」が郵送されていますので参考にして下さい。

◇学校保健

理事 上原 充郎
(代読 佐々木 久夫)

第1回学校医部会幹事会が平成8年6月15日、県医師会館に於いて開催されたので報告致します。

平成8年度学校保健事業計画は次の通りです。

►平成8年度学校保健事業計画

- (1) 第13回岩手県学校保健・学校医大会の開催
- (2) 各種検診活動の推進
- (3) 小児成人病予防対策の展開
- (4) 学校保健委員会活動の推進
- (5) 児童生徒の今日的問題の検討
(精神衛生、思春期、スポーツ等)
- (6) 幼稚園保育園保健活動の推進
- (7) 学校保健関係団体との連携

次に平成8年度学校保健行事予定の主なものは次の通りです。

►平成8年度学校保健行事予定

- | | |
|-------------|------------------------------|
| H 8. 6. 15 | 第1回学校医部会幹事会 |
| H 8. 7. | 第7回小児成人病予防対策委員会 |
| H 8. 8. 25 | 第8回東北学校保健・学校医大会(於 宮城県) |
| H 8. 11. | 県教育委員会との懇談会 |
| H 8. 11. 16 | 平成8年度第27回全国学校保健・学校医大会(於 佐賀県) |

- H 9. 1.19 第13回岩手県学校保健・学校医大会、第2回学校医部会幹事会
- H 9. 1. 日医主催平成8年度学校保健講習会（於 日本医師会大ホール）
- H 9. 2. 日医主催平成8年度乳幼児保健講習会（於 日本医師会大ホール）

◇産業保健



八角理事

理事 八角 正 司
本年度、10月1日から安全衛生法の一部改正があります。

- その主なものは、
1. 従業員50人以上の事業所に産業医の委託が義務づけられる。
 2. 検診の事後指導及び事後の健康管理に

対しての産業医の権限が強化されること。

3. それに伴って産業医の責任も重くなること。
4. やがて、産業医は産業認定医に限定されること。

現在（H 8. 6. 15）岩手郡医師会産業認定医は26名、内13名の先生が5月末までに更新になりました。

今度9月23日、4名の先生が更新の対象になります。

その為、9月21日(土)午後1～6時まで県医師会館において、講習があります。（5単位）

さらに、10月5日(土)、郡医師会主催の実地研修（3単位）を玉山村好摩、老人保健施設「ケアホームやすみ」において、午後2時より5時まで行います。

ご参加下さいますようお願い致します。

◇労災保険



篠村理事

理事 篠村 達 雅
本年4月1日の健康保険診療報酬改定に伴い、労災診療費算定基準における健保準拠部分の取扱の変更が同日から施行されました。それ以外の部分の改定が決まり、すでに各医療機関に通知されています。

ます。

今回の改定内容は、5月1日に溯って実施されます。

従来複数の指に行った場合、同一手術野として取り扱われた「手や指にかかる骨折非観血的整復術」は、指の本数に応じた点数が設けられたほか、「手の指にかかる創傷処理」でも、5指まで点数設定された。また、両項目とも、これと同時に指（手、足）にかかる手術などを各自異なる指に対して行った場合は、各自の所定点数を合算した点数で算定できることになった。

新たな考え方としては、「入院室料加算」に地域区分を設定し、甲乙2種類の点数とした。地域による点数格差については、低い点数となる地域からの不満を懸念する向きもあると思います。

また、今回の労災診療費改定については、日本医師会の「労災・自賠責委員会」答申の方向にはほぼ沿った内容として一定の評価をされているが、労災特掲である手指に対する創傷処置の点数アップが低いことが問題視されている。このマイナス部分を、「再診時療養指導料」でカバーしてもらうことです。

5月診療分の請求に関しては新基準での算定ということになるが、今回は通知が遅くなつた関係上、改定前の算定基準で請求された場合でも各都道府県労働基準局において点数修正される。さらに、点数修正だけでは対処出来ない改定項目（創傷処理や消炎鎮痛処理特例など）については、その差額分の請求方法（6月分と併せて請求するなど）を各都道府県医師会と労基局とで協議を行い、対応することになっています。

具体的改正内容は、この間のいわて医報に号外として（黄色の用紙）綴じ込まれておりますので、「労災診療費の算定基準の一部改定について」をご覧ください。

◇広 報



嶋理事

理事 嶋 信
平成8年度広報・健康教育委員、いわて医報編集委員連絡協議会が、平成8年5月18日(土)県医師会館において行われ、石川県医師会長は冒頭、広報活動についての見解を述べた。

広報は医師会内部と医師会外部の広報があり、会外部としての広報は、地域住民を対象とした健康教育に重きをおくものであり、また数年前より広報と健

康教育を一つと考えて、長い名前となってい
るが、ネーミングについてはなじんできたら
「広報」に統一したいと考えている。

いわて医報については、

1) 会の記録性

2) 正確な伝達性

の二点をあげられ、「読まずに捨てられる医
報づくり」より「読み易い血の通った医報づ
くり」にこれからも励んでほしいと担当者に
伝えていると結んだ。

○本年度事業について（要旨）

- ・いわて医報の掲載記事の年間予定

- ・県医理事会（2ヶ月に1回掲載）

- ・行事予定の記事掲載

- 6月30日 県医師会総会（気仙医師会担
当）

- 8月25日 県医師会野球大会（北上医師
会担当）

- 9月15日 県医師会ゴルフ大会（宮古・
釜石医師会担当）

- ・TV放映について

現在15分、15分の月2回（再放映も含
めて）の番組であるが、30分通しての番
組の方がいいという意見もあろうと思わ
れます。予算の関係及び15分ずつ毎週
TV放映できるメリットもある。

また、視聴率は約3%とのこと。

- ・ラジオ放送について

次年度より、今まで参加していない泌
尿器科領域の内容も組み入れてほしいと
の要望あり。検討することにした。

◇健康教育

理事 栢内 秀彦

平成8年度広報・健
康教育委員、いわて医
報編集委員連絡協議会
は、平成8年5月18日
(土)県医師会館で行われ、
その中で県民健康講座
について話し合われ、
メインテーマ「くらし
と健康」共通テーマ

（サブテーマ）として「脳梗塞」と決まりました。岩手郡としては、本年度は西根町の担当となり、岩手保健所及び西根町役場の担当者と相談の上、今後日程、講師の選定など話し合いたいと思います。関係者の方々よろしくお願ひします。

栢内理事



◇生涯教育

理事 岡本 彰

（代読 高橋会長）

平成7年度生涯教育申告書提出状況

全会員（平成8年3月末現在）	78名
提出	55名（71%）
未提出	24名
内訳	
A会員	7名
B会員	17名

◇福祉

理事 坂井 博毅

平成8年7月6日(土)



坂井理事

岩手県医師会館に於いて
郡市医師会福祉担当
理事会が開催されました。
石川育成県医師会
長先生のご挨拶に始ま
り、福祉活動状況、日
医年金並びに各種保険
加入状況、弔慰金及び
入院見舞金の支払状況、日曜人間ドックの利
用状況、第一グループ保険会の規約改定、福
祉関連特別会計、その他について事務局から
報告、説明がなされました。引き続き1) 医
師年金加入促進について2) 生保、損保、グ
ループ保険の加入促進について協議がなされ
た。以下その概要と今年度の各種大会の予定
について報告する。

医師並びにその家族と職員のための福祉事
業はどうあるべきか大変難しい問題である。
これまで先輩が様々な提案をし、試行錯誤し
ながら実践してきましたが、主に生保、損保、
年金といった福祉活動に終始し、必ずしも充
分な医師相互の福祉活動とは言い難いのが現
状であり、若い会員の斬新な意見を是非いた
だきたいとの執行部からの強い要望がありま
した。良いアイディアやご意見をお持ちの先
生方どしどし県医師会福祉担当部までお申
出下さい。

県医師会レベルでの事業もさることながら、
郡医師会単位の活動も不十分のように思われ
ます。担当理事である私の怠慢であります
が、多くの先生方にご満足いただくようなアイディ
アを切にお願いいたします。

高橋会長先生はこうした現状に思いを致し、
数年前より医師と家族ならびに職員の岩手山
登山、ボーリング大会、ゴルフ愛好家による
会長杯争奪ゴルフ大会などを計画実践してき
ましたが、残念ながら参加者が少なく、満足
のいくものではありませんでした。

こちらにも多くの先生方が参加とご協力を

お願ひいたします。

バブル崩壊後、我が国の国民年金を始め、各種年金の目減りや破綻が問題になっていきます。我々の医師年金やその従業員のための厚生年金基金も決して例外ではなく心配されています。特に数年前多くの先生方が職員の老後のために先生方が全額負担する、きわめてシビアな岩手県医療機関厚生年金基金に加入されました。折角の好意が無駄になつてはと大変心配されるところです。その運営状況について、岩手県医療機関厚生年金基金の常任理事であり、取り扱い銀行である、大和銀行の玉川光男氏が縷々説明された。

特にアメリカで問題を起こした、大和銀行という偏見もあってか充分納得は出来ませんでしたが、とにかく他の年金の運用利用率が2.5%代にもかかわらず、岩手県医療機関厚生年金基金の運用利用率4.76%でしたので心配無いとのことでした。

年金の種類とその仕組み

		厚生年金基金		加算年金	恩 給	
		厚生年金				
国民年金 (基本年金)	基本年金	基本年金	医師国民年金			
	国保	社保	医療機関厚生年金基金	医師国保	公務員	

日医年金及び各種保険の加入状況はA会員はおおむね良好ですが、B及びC会員の先生方の加入が少ないようです。相互扶助の精神では是非ご加入下さいとのことです。医師年金も若い先生方さえ参加していただければ、他の年金より有利のことでした。

また一億円迄保証される日本医師会医師賠償保険へのB会員の先生方の加入が近年増えていますましたがまだ少ないようです。医療訴訟の多い昨今より多くの先生方の加入が望まれます。

グループ保険は第一、第二の二つのグループ保険がありますが、第一グループ保険に入っていた先生方の多くがご高齢となり、初期の約束が不可能となり、ネーミングは変わりませんが、機能は第二グループ保険と全く同じものになりました。高額の保険を希望される先生方は二つの保険に加入なさって下さい。これらの手数料が医師会の活動資金として運用され、医師会費を上げずにすむそうです。

第48回県医師会親睦野球大会は8月25日、北上市医師会が担当で北上市営球場を主会場にして盛大に開催されます。岩手郡医師会の活躍を祈りたいと思います。

第30回県医師会親善ゴルフ大会は平成8年

9月15日、宮古、釜石両医師会の担当で宮古カントリークラブでクリニックマガジン主催の日本医師選手権予選も兼ねて開催されます。

第5回郡医師会長杯争奪岩手郡医師会親善ゴルフ大会は春は土谷正彦先生が優勝されました。秋も行う予定ですので会員の先生方多数の参加を期待しております。

第25回岩手医家美術展は、平成8年11月25日から27日の3日間岩手県医師会館で開催されます。

一日人間ドックは本所（予防医学協会）で4回、県南センターで2回の合計6回が行われました。岩手郡医師会からの参加者はきわめて少ないようです。医師国保に加入の方は無料ですのでご利用下さい。

弔慰金及び入院見舞金給付については不幸にして会員が亡くなられた場合は30万円の弔慰金が支払われます。また入院加療を受けた場合も見舞金が医師会から出ますので県医師会にお知らせ下さい。

以上福祉担当理事会からの報告と致します。



第48回岩手県医師会総会並びに 第96回岩手医学会（春季）総会



高橋副会長

催された県医師会総会に出席しました。岩手医科大学学長小野繁先生の「医学教育に思ふ」、山浦玄嗣先生の「ヒタカミ黄金伝説」の講演もありましたが、いわて医報に詳しく掲載されると思います。坪井栄孝日本医師会長の「日医が直面している課題と戦略」と題してのご講演の要旨を述べてその責をお許しいただきます。

幾つかのセクションに分けてお話しになりましたが、冒頭会長は「全国の14万人の会員の意識改革が必要だ」と述べられました。

1. 医療保険制度の改革

特に財源論で医療保険審議会において審議されているが、国の政策理念が根本的に間違っていて、とくに方法論からみると、国民的コンセンサスを得ない、つぎはぎだからで国民に選択させる何物もない。介護保険制度については、後でものべるが、この制度も、国民の負担が多く、国民の声を聞かず福祉政策の名目で介護保険制度を導入しても、その反面では医療費抑制策のみをとろうとしている。よって「介護を受ける高齢者が医療を受けられない制度であってはならない」と医師会は主張している。

2. 医薬品問題について

医業経営にあっては、薬の利鞘では無く、医療技術の評価によって、それを基盤として生きていくって欲しい。

3. 介護保険制度の創設

この制度の創設には日本医師会は基本的には賛成だが、この制度の導入は社会全体の救援が必要で、しかも「家族の介護による荷重な負担の解消」であって、前にも述べたが医療費の抑制であってはならない。

医療費の抑制についての見解の相違、

- (1) 高齢者が増えるから医療費が増える。
- (2) 人口が増えるから医療費が増える。

高橋会長より会員の中に都合がつかず出席できない方もいるだろうから、君が出席してきて岩手郡の通常総会で報告してくれないかと言われ、平成8年6月30日陸前高田市のキャピタルホテル1000で開

副会長 高 橋 孝

- (3) 医療が高度化するから医療費が増える。
- (4) 人件費（医師、看護婦）が増えるから医療費が増える。

このことについて医療費の増える要因はサービス向上によって医療費が増加したと考えるべきを、薬が多い、医師が多いと考え、薬を少なく、更には医師の定年制まで考えているようだ。そもそも医療費は本来、國民から「このようなものが欲しい」「これだけのサービスが欲しい」と要求がなされるべきだし、医師もこの様な國民的支持基盤のうえにたって「これだけの費用がかかるよ!」と言って國民の選択した医療、福祉、保険を遂行するのが本来の姿なのに、実際は厚生省と大蔵省のみで議論されて決められるのが現状である。

4. 医療法改正

見送り

5. 准看護婦制度

今まで通り存続する。ただし、機能分担が変わるかもしれない。

6. 指導大綱、監査要綱

指導対象を決める委員会には医師会は入れないが、決まった者については医師会に提示して、この者について良いか、悪いか相互に意見を交換し、もし悪ければ再度委員会に持ち帰り検討する、と言う合意ができた。しかし、近い将来厚生省ではなく医師会の自浄として行う方向で考えていると言ふお話しでした。

協 議

弔慰金、見舞金について

郡医師会員が不幸にしてなくなられたとき、或いは病気にて入院加療の必要となった場合、今まで各個人としてそれぞれがお見舞など行っていたが、これを郡医師会としてもいくらかの弔慰・見舞金を差し上げたらいいのではないかとの提案があり、その額については役員会にはかりたい。

議 事

1) 平成 7 年度岩手郡一般会計決算書の承認を求むる件

平成 7 年度・一般会計決算書

自 平成 7 年 4 月 1 日
至 平成 8 年 3 月 31 日

社団法人 岩手郡医師会

(歳入の部)

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘要	要
繰 越 金	5,000,000	6,441,220	前年度より繰越	
会 費	4,805,000	4,959,000	A 会員 B会員 1期分 2期分 3期分	95,000×40人=3,800,000円 63,000×1人= 63,000円 12,000×31人= 372,000円 12,000×31人= 372,000円 11,000×32人= 352,000円
補 助 金	505,000	508,000	県民健康講座 地 域 医 濟 学 校 医	425,000円 28,000円 55,000円
雑 収 入	85,000	223,989	預金利息・臨時総会会費	
合 計	10,395,000	12,132,209		

(歳出の部)

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘要	要
(事 業 費)	(9,295,000)	(4,876,747)		
会 議 費	2,825,000	2,416,144	総 会(3回) 役 員 会(5回) 総 務 会(6回) 県 医 総 会 費(1回)	1,445,785円 648,927円 286,432円 35,000円
生 涯 教 育 費	1,500,000	63,460	学 校 医 研 修 会	63,460円
地 域 保 険	700,000	400,486	県 民 健 康 講 座	250,486円
広 報 発 行 費	870,000	341,750	他 都 市 懇 談 会	150,000円
旅 費	1,300,000	684,430	印 刷 費(4回)	294,580円
交 際 費	1,000,000	367,617	発 送 費(4回)	47,170円
慶弔見舞金	500,000	144,200		
広 告 費	200,000	135,190		
雑 費	200,000	143,775		
予 備 費	200,000	179,695		
(事 務 費)	(1,100,000)	(742,309)	事 務 連 絡 費 通 信 費 消 耗 品 費 印 刷 費 リ ー ス 料 事 務 处 理 費 雜 費	48,450円 156,653円 190,638円 18,540円 151,183円 120,000円 56,845円
合 計	10,395,000	5,619,056	歳 入 12,132,209円 - 歳 出 5,619,056円	
次 期 繰 越 金	-	6,513,153		

2) 平成 7 年度岩手郡医師会休祭日当番医決算書の承認を求むる件

平成 7 年度・休祭日当番医決算書

自 平成 7 年 4 月 1 日
至 平成 8 年 3 月 31 日

社団法人 岩手郡医師会

(歳入の部)

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘要	要
繰 越 金	6,975,000	7,819,182	前年度より繰越	
補 助 金	3,699,000	3,909,000	八ヶ町村よりの補助	
雑 収 入	6,000	12,219	預金利息	
合 計	10,680,000	11,740,401		

(歳出の部)		単位：円	
科 目	予 算 額	決 算 額	摘要
報 償 費	4,200,000	2,502,397	健 康 教 育 費 1,500,000円 救 急 対 策 費 442,759円 県 医 野 球 大 会 313,917円 県 医 ゴ ル フ 大 会 145,721円 郡 学 校 保 健 会 100,000円
需 要 費	400,000	169,042	会 議 費 169,042円
旅 費	700,000	582,000	
役 務 費	180,000	0	
予 備 費	200,000	0	
合 計	5,680,000	3,253,439	
次 期 繰 越 金	5,000,000	8,486,962	歳 入 11,740,401円 - 歳 出 3,253,439円

3) 平成 7 年度岩手郡医師会特別会計決算書の承認を求むる件

平成 7 年度・特別会計決算書

自 平成 7 年 4 月 1 日

至 平成 8 年 3 月 31 日

社団法人 岩手郡医師会

(歳入の部)		単位：円	
受 入 先	金 額	摘	要
繰 越 金	7,114,344	前年度より繰越	
岩 手 県 医 師 会	806,530	乳児等医療費助成事業事務交付金等	
県 医 師 信 用 組 合	167,000	平成 7 年度事業委託費	
県 医 師 国 保 組 合	113,000	支部交付金・保健体育事業助成金	
い わ て 医 師 (協)	47,000	平成 7 年度支部交付金	
雜 収 人	45,045	預金利息	
合 計	8,292,919		

(歳出の部)		単位：円	
支 払 先	金 額	摘	要
岩 手 医 学 会	268,000	平成 7 年度会費 4,000×67人	
岩 手 医 科 大 学	50,000	第38回東医体夏季大会援助金	
県 北 産 婦 人 科 医 会	100,000	周産期研究会補助金	
合 计	418,000		
次 期 繰 越 金	7,874,919	歳 入 8,292,919円 - 歳 出 418,000円	

監 査 報 告 書

平成 7 年度社団法人岩手郡医師会決算書について

1. 平成 7 年度岩手郡医師会一般会計決算書の承認について
2. 平成 7 年度岩手郡医師会休祭日当番医決算書の承認について
3. 平成 7 年度岩手郡医師会特別会計決算書の承認について

上記決算については慎重に監査いたしましたところ、その収支は適正妥当なものと認めます。

平成 8 年 6 月 26 日

社団法人岩手郡医師会

会長 高橋 牧之介 殿

社団法人岩手郡医師会

監事 細井 信夫

高橋 克郎

学術講演

『胸郭出口症候群』

阿部正隆
岩手医大教授

先生は、1932年宮城県生まれ。1961年岩手医大卒業。62年同整形外科教室入局。64年同助手。75年同講師。80年同助教授。85年岩手医科大学整形外科教授。92年香港大学客員教授。

93年東日本整形外科学会会长。日本手の外科学会会长など歴任。

〔要旨〕

働き盛りの年代で、慢性の肩こりに悩む人は少なくありません。その多くは頸肩腕症候群といわれたり、他医で原因不明の肩こりといわれたりします。大多数は胸廓出口症候群(Thoracic Outlet Syndrome : TOS)に入るものです。

TOSは、斜角筋症候群、肋鎖症候群、頸肋症候群、過外転症候群など、これらの総称であり、大多数は混合型である。

また鎖骨と第1肋骨の間の鎖骨下動脈と腕神経叢の圧迫が原因であるとされ、なで肩やまる肩の体型、解剖学的異常の背景に累積外

講師 岩手医科大学教授
阿部正隆先生
座長 郡医師会副会長
西島康之先生

傷（職業的に内装業、美容師、教師、調理師、野球の投手、主婦など）が加わるか、一撃外傷（追突事故、転倒、柔道のしめ業など）が加わって発症します。

腕神経叢絞扼因子としては
斜角筋：損傷、肥大など
頸 肋：奇形、突起の肥大化
肋鎖間隙：狭小
などが考えられ、それに圧迫、伸張、捻転などが加味されて症状の発現につながる。

症状は、上背部、肩甲部、頸部、頭部などの痛み、上肢のシビレ、脱力感などで、時には字も書けなくなったり、レイノー現象を起こします。

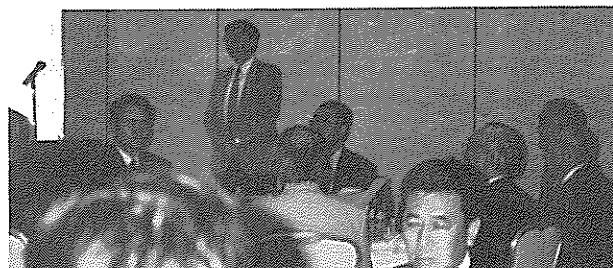
診断の決め手は、誘発試験、軽減試験でそれぞれの肢位により症状の増強、軽減がみられるかをテストする。即ちしびれる位置で枕骨動脈が触れなくなるか弱くなるかを観察する。

治療は、胸郭出口を拡げる方法、即ち、絞扼因子除去が中心で、これには生活指導、筋力増強訓練、コルセット、ギブスベット、手術、ブロック療法などがあります。

懇親会 兼 秋浜先生受賞祝賀会

記念品を贈呈した高橋会長(右)と
秋浜晃先生(左)

玉山村渉民の秋浜晃先生は、永年国保医療に貢献した功績により厚生大臣より表彰を受けた。その労苦に対して会員一同でお祝いとした。



懇親会場

研究報告

岩手町における最近5年間の悪性新生物の発生状況

岩手県立沼宮内病院 内科
渡辺恒雄

●はじめに

岩手町医師団（岩手町内で医療活動を行っている岩手郡医師会員で構成）では以前より相互の診断技術の向上、ならびに治療方針の検討、治療後の結果報告などを目的としてレントゲンコンファレンスと称する勉強会を毎月第3金曜日に岩手県立沼宮内病院において開催しており1996年2月で既に第130回を数えるに至っている。この会では、毎年1月に各医療機関において前年に発見された悪性新生物について死亡例、手術例、他医紹介例も含めた全症例を持ち寄りその発見の経緯、診断、進行度、経過について集計し、検討会を行ってきた。そこで今回その資料を元に、岩手町において発見された悪性新生物についての最近5年間の動向について検討を行ったので簡潔に報告する。

●結果

1. 岩手町の悪性新生物の年次別総発生数を表1に示す。総発生数は1991年より年々増加傾向にあり、1994年の87人をピークに1995年には69人とやや減少した。5年間で総数342人、年間平均で68.4人の発生数であった。
2. 発生部位別では表2のように胃癌、大腸癌が特に多く発見されており、毎年15人から20人と年次別の変化は比較的少ないが、胃癌においては若干の減少傾向が認められた。一方で肺癌、脾癌、胆道癌、子宮癌においては、わずかながらではあるが徐々に増加傾向を示した。これらの傾向は子宮癌を除き表3に示す全国の悪性新生物死亡数の年次推移とほぼ同じ傾向であった。
3. 乳癌、甲状腺癌、腎臓癌、膀胱癌、等においては少数の散発的発生で有意な変化は認められなかった。
4. 胃癌及び大腸癌、子宮癌においては特に

早期癌の占める割合が他の癌より高く（胃癌38.9%、大腸癌41.6%、子宮癌35.7%、ただし早期大腸癌には内視鏡的に切除したcancer in adenomaを含む）予後も良好なもののが多かった。

5. 表2におけるその他の腫瘍には脳腫瘍、喉頭癌、耳下腺癌、骨腫瘍、縦隔腫瘍、後腹膜腫瘍、が含まれる。

●おわりに

以上簡単に岩手町における悪性新生物の最近5年間の発生状況について報告したが、これはあくまでも町内の医療機関で発見されたものについての報告例であり、初診からあるいは2次検診から盛岡市などの近隣市町村の医療機関を受診し発見され、治療された場合の症例は含まれていない。そこで岩手町における国保患者の岩手町外の医療機関受診率（平成4年度32.1%）から推測すれば、全体のおよそ7割程度しか把握されていないと考えられ、それを考慮した上で検討されなければならないと考えられる。

また岩手町においては胃癌、大腸癌が毎年多く発見されているが、特に大腸癌においては発見総数、早期癌の占める割合の両者において第1位であったが、これは平成2年度より実施している岩手町大腸集団検診の検診システムが医師会の諸先生方ならびに岩手町保健課、パラメディカルの皆さんのご協力により円滑に進められた結果であろうと思われた。

以上最近5年間における岩手町内悪性新生物発生状況について簡単に報告した。

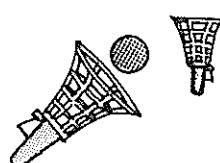


表1 年次別悪性新生物発生数(岩手町)

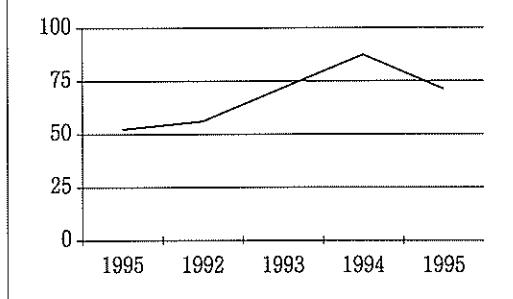
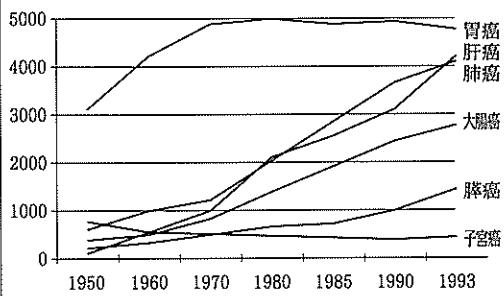


表2 発生部位別頻度(岩手町)

	1991	1992	1993	1994	1995	合計
胃癌	11	15	18	16	12	72
大腸癌	19	13	16	23	18	89
肺癌	3	4	11	10	8	36
脾癌	1	3	5	8	6	23
肝癌	4	2	4	5	1	16
胆道癌	2	2	4	2	4	14
食道癌	0	2	2	5	1	10
乳癌	1	4	3	1	1	10
甲状腺癌	1	2	1	1	2	7
腎臓癌	2	1	0	2	1	6
膀胱癌	1	2	3	0	0	6
前立腺	1	1	2	1	2	7
子宮癌	2	2	2	3	5	14
卵巣癌	0	1	0	0	1	2
皮膚癌	2	1	0	0	1	4
血液系腫瘍	3	1	2	4	2	12
その他	2	1	1	6	4	14
合計	55	57	74	87	69	342

表3 全国の部位別悪性新生物死亡数の年次推移



第5回岩手郡医師会ゴルフ愛好者の集い



参加者一同

五月晴れの好天に恵まれた5月26日(日)、安比高原ゴルフクラブにおいて、第5回岩手郡医師会ゴルフ愛好者の集いが行われた。

参加予定されていた先生のうち2名の欠席があったが、本日のスタートコースは十和田コースで、高橋会長及び西島副会長による始

日時 平成8年5月16日(日)
場所 安比高原G.C.

球式を行ったのち、第1組よりスタートが切られた。最初のホールは打ち下ろしのため、思い切って天空高く飛ばすことのできる豪快なティショットが期待されるところである。

安比高原は、今年はことのほか積雪が多く、オープンは4月中旬であったが、ところどころに積雪があり、当初は三コースだけでスタートし、今回使われた十和田コースは5月のゴールデンウィークからのオープンであったという。でもコースコンディションは順調であったが、グリーンの一部に雑草が繁茂し、パターの際にははずんでいる様子がみられ、各選手とも苦戦したようである。

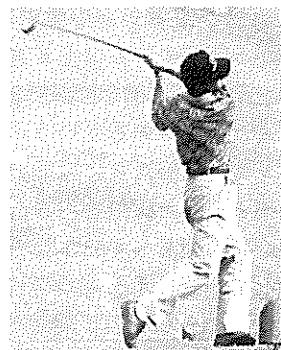
ゴルフというものはメンタルな部分が多く

作用し、リズミカルなパターンで順調に推移している場合には良好な結果が得られるが、途中で待ち時間が長かったり、ひとたびティショットが乱れたり、二打、三打目で失敗すると後々まで悔いが残ってしまい、全く予想もしなかったスコアにつながってしまうことも多々ある。これらを克服することによって(精神面でのトレーニングが必要か(?)或いは数多くのコースでの経験を積まなければならない(?)……)、それが自信となってスコアアップするのかと考えられる。

今回もベストグロス(40、42)で優勝した土谷正彦先生は、安比高原G.C.もホームグランドとしており、いわば地元でもあり、前半のコースではパートナーの方々もそれぞれうまく2~3打以内の差で折り返したが、後半はややティショットが乱れ、コースの左右一杯を使って頑張り(本人の弁)、2ヶ所でトリプルボギーを出した以外は7ホールをパープレーにまとめ優勝となった。

今回初参加の細井信夫先生も無難にスコアを総めて、次回への手ごたえを感じたことと思います。また高橋会長も前半で50代のスコアも出したことだし、「空振りをもう少し少

なくすればもっとスコアアップにつながった。前半で5打、後半でも5打位はあると思う。(本人の弁)」といっていた。またベテランの三善悟先生もこの安比高原G.C.が初ラウンドとのこと、ドラターン2ヶ所を獲得し頑張った。アトラクションのニアピン、ドロコンにも工夫を凝らして、多くの方々に商品を網羅されるように配慮したつもりであり、また多くのメーカーの方々の協賛と参加をいただき楽しい一日を過ごすことができた。どうも御苦労様でした。次回秋にも多くの方々の参加を歓迎します。



優勝した土谷正彦先生

順位	氏名	十和田	岩手山	TOTAL	HDCP	NET	
1	土 谷 正 彦	40	42	82	10.8	71.2	優勝
2	久保谷 康 夫	44	46	90	16.8	73.2	準優勝
3	嶋 信 信	42	45	87	13.2	73.8	
4	三 善 悟	50	45	95	20.4	74.6	
5	細 井 信 夫	50	51	101	25.2	75.8	
6	柄 内 秀 彦	47	47	94	16.8	77.2	
7	瓜 田 明 義	52	53	105	27.6	77.4	
8	佐 藤 郁 郎	45	56	101	22.8	78.2	
9	高 橋 牧 之 介	56	64	120	33.6	86.4	B. B
10	西 島 康 之	52	67	119	31.2	87.8	B. M

〈参考〉

1	奥瀬 徳 弥	42	52	94	20.4	73.6	優勝
2	石崎 幸 雄	43	42	85	10.8	74.2	準優勝
3	中村 由紀夫	47	54	101	26.4	74.6	
4	鈴木 大	48	52	100	25.2	74.8	
5	千葉 秀 典	39	40	79	3.6	75.4	
6	永山 康秀	48	49	97	19.2	77.8	
7	大森慎一郎	49	54	94	15.6	78.4	
8	村上 優	48	50	98	19.2	78.8	B. B
9	渡辺 壮一	57	51	108	28.8	79.2	B. M

隨 想

ネーお祖父ちゃん 今月どうしてこんなに残業が多いの？

雲石町 高 橋 孝

高橋会長よりもお話を聞きしましたし、新聞紙上にも報道されたが、英國の医師たちはストレスでダウン寸前とのこと、英國医学協会がメンバー800人を調査した結果、大半が仕事から生じるストレスに悩み、自殺まで考えるケースもあった。ストレスの原因は仕事量の増大や訴訟、患者からの要求など様々、9割の医師が5年前よりもストレスが非常に強まり、酒や薬物の乱用に走り、2割の医師が自殺を考えたことがあるという。更にはこれらのストレスは医師たちに性欲の減退、不眠症、胃潰瘍といった病気を引き起こしていると報じ、会長も間もなく日本にも上陸するだろうと話していた。「タッコ今日湯本にゆくが一緒に乗っていくか？」未だ小学校就学前だったが、ホット湯田に住んでいたころ、唯一人の開業医T先生に可愛がられ、先生が湯本の分院に患者の診察に行くとき、オートバイに乗せてもらい、鳩胸の形のガソリンタンクの上に跨り15分位のドライブを楽しみ、先生が患者を診察し終えるのを待って又帰りのドライブを楽しんだ。湯本の出張の曜日に道路に出て先生の通るのを待ち何度も何度も連れて行っていただいた。その後父が鉱山で立て坑より落なし、ひん死の重症を負い、当時貨車に乗せて今の北上線で黒沢尻病院にT先生が一緒に付いていってくれて九死に一生を得たと母から何度も聞かされ、更にはお金も請求されなかつたと母も祖母も不思議そうに話していたのを思い出す。未だ「ケガと弁当は自己持ち」の時代だったが、公務災害扱いで会社で支払っただろうと思うが定かではない。昭和13年から国保の制度が発足するが、いまだ当時は患者は保険扱いではなかったと思う。風邪を引いたり、ケガをしてはT先生の治療を受けたが、医療費の支払にはその都度その都度ではなく、旧暦の薬師の日、4月8日に一年分を収めた様である。その支払を

済ませた時に毎年紅白のお餅を親が戴いてきて美味しく食べたことを思い出す。親戚にも、私の回りに医者はなく、このT先生の感化と湯田ダムの水没移転の保証金のお蔭で医師となつたが、当時はT先生も自分の医療技術についての責任を感じているのみで少なくとも英國の医師の様なストレスの悩みは無かっただろうと思っていたら、石川県医師会長が日医の日常診療に必要な法律の知識の中の座談会で、応召義務、インフォームドコンセントについて詳しくお話をなっていたが、昭和3年に既に「応召義務違反」の訴訟があったのを聞いてT先生も多くの制約の中に生きたことが窺える。さてその残業時間だが、私のところではいまだ手書きで診療報酬明細書を書いているが、事務員が診療時間内に時間があいている時に少しづつ書けたが、薬剤情報提供加算が制定されてより薬袋に薬の特徴、薬効等書かなければならなくなり、明細書を書く時間が無く残業時間が大幅に増え、残業手当の支払い額が加算点数の2倍は増えた。薬剤情報提供はインフォームドコンセントの中で大きな位置を占めていることも十分承知しているし、又当然有るべきものを法制化した云々と言う声もあるが、何れお金の掛かるインフォームドコンセントである。試行錯誤を繰り返して患者さんに規則通り薬剤情報を充分に提供でき、しかも残業時間を短くできる方法を探さなければならない。皆さん良い方法がありましたらお教え下さい。

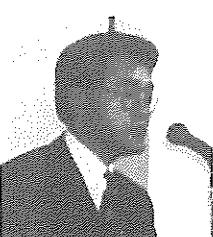


新 入 退 会 員

◆入 会



- ①氏 名：高橋 徹
(岩手町和田医院)
②出身地：岩手県盛岡市
③出身校：岩手医学専門学校卒業（昭和24年）
④診療科目：内科
⑤勤務先：岩手郡岩手町川口12-3-3
和田医院
⑥自宅：岩手郡滝沢村滝沢字穴口448-1
⑦主な経歴：福島県立医科大学第三内科、財団法人大原総合病院内科部長
高橋内科胃腸科医院開業（福島市）
昭和63年に帰郷、盛岡繫温泉病院内科長となる。
定年退職後に岩手県赤十字血液センター嘱託となる。
平成8年2月に院長和田栄吉先生の死去に依り岩手町川口の和田医院に勤務しております。
⑧趣味：昨年2月に心臓の手術をして、身障者1級になってから特別な事はしておりません。
⑨ひとこと：一度は現役をリタイヤした体ですが、縁があって同級生の和田先生の所で仕事をしております。今後よろしくお願ひ致します。



- ①氏 名：紺野敏昭
(滝沢村板内第二病院)
②年齢：昭和24年
2月24日生、47歳
③出身地：気仙郡住田町
④出身校：岩手医科大学医学部大学院卒業（昭和53年）
⑤診療科目：脳神経外科（認定医）、神経内科（認定医）
⑥勤務の時期：平成8年4月1日
⑦趣味：旅行、音楽（クラシック）、カメラ、スキー
⑧ひとこと：薄学浅才で趣味も広く、浅く、時間も金もないのですが……。

- ①氏名：三上光治（滝沢村三上医院）
②年齢：40歳（昭和31年7月8日生）
③出身地：青森県
④出身校：岩手医科大学医学部卒業（昭和59年）
⑤診療科目：内科一般、神経内科、小児科、外科一般（リハビリ）、整形外科
⑥勤務の時期：開業は平成8年8月上旬の予定
⑦趣味：読書
⑧ひとこと：このたび、平成7年に縁があり滝沢村に開院のための土地を高額な借金にて得ることができました。その後が大変苦労をしました。医療機器業者の選定において妻と2人で対応しましたが、医療機器業界の複雑な、難解な理解し切れない部分がありました。しかし、岩手郡医師会長高橋牧之介先生に平成7年度よりご相談・ご指導を得、このたび開院となりました。この場をもって御礼を申し上げます。
地域の医療に微力ながら徹したいと思います。

- ①氏名：奥田 聰（いわてリハビリテーションセンター）
②年齢：昭和39年11月29日生
③出身地：岩手県水沢市
④出身校：岩手医科大学卒業
⑤診療科目：理学診療科（整形外科）
⑥勤務の時期：平成2年より勤務開始、平成8年4月より正規職員となる。
⑦趣味：テニス（硬式）、旅行
⑧ひとこと：今後ともよろしくお願ひします。

- ①氏名：蒔田真司（いわてリハビリテーションセンター）
②年齢：29歳
③出身地：静岡県静岡市
④出身校：岩手医科大学卒業
⑤診療科目：理学診療科（循環器内科）
⑥勤務の時期：平成8年5月1日より勤務。
⑦趣味：熱帯魚飼育
⑧ひとこと：よろしくお願ひします。

- ①氏名：和田 進（安代診療所）

◆退 会

- 板内秀士（板内第二病院→盛岡市医師会）
田畠矩正（安代診療所→千葉県医師会）
和田栄吉（死亡）
古町克郎（いわてリハビリテーションセンター）
中島淳（いわてリハビリテーションセンター）

岩手郡医師会理事会

日 時：平成 8 年 4 月 12 日(金)午後 6 : 30
 場 所：盛岡市駅前通り
 メトロボリタン盛岡
 出席者：高橋会長、高橋（孝）、八角、坂井、
 上原、根本、西島、岡本、篠村、嶋、
 柄内、及川

1. 行事予定
2. 役務分担について
3. 平成 8 年度三歳児健康診査にかかる委託
単価について

4. 入院中の患者の他医療機関への受診の取り扱いについて
5. 平成 8 年度岩手県医師会費の賦課
6. 岩手医学会評議員の推薦について
7. 平成 8 年度保健体育事業開催計画書の提出について
8. 第48回岩手県医師会総会における叙勲受賞者の届けについて
9. 第 8 回学校保健・学校医大会の一般演題について
10. 三内丸山遺跡について
11. その他

岩手郡医師会役員会

日 時：平成 8 年 6 月 26 日
 場 所：盛岡市
 メトロボリタン盛岡 NEW WING
 出席者：高橋会長、西島副会長、高橋副会長、
 及川、岡本、上原、佐々木、嶋、柄
 内、八角、根本、篠村の各理事、佐
 藤議長、細井、高橋の各監事

- ① 各種委員の選任
- ・岩手医学会評議員 西島康之
 - ・診療所部会幹事 西島康之
 - ・岩手県医師会成人病検診連絡協議会委員 及川忠人
 - ・平成 8 年度岩手県心肺蘇生法普及事業 盛岡地区推進会議委員 八角正司
 - ・盛岡地域思春期保健連絡会議委員 上原充郎
 - ・地区保健所運営協議会委員 高橋 孝

- ・重度心身障害児ネットワーク
推進協議会委員 栄内秀彦
- ② 県医師会各部会会議
- ③ 郡医師会総会次第について(7月 6 日開催)
- ④ 平成 7 年度生涯教育申告状況について
- ⑤ 県医師会総会出席者について(懇親会ほか)
- ⑥ 県医師会野球大会について
- ⑦ 平成 8 年度県民健康講座について
(西根町会場)
- ⑧ 平成 8 年度保健体育事業開催計画について
- ⑨ 第30回県医師会親睦ゴルフ大会について
(9月 15 日)
- ⑩ 予防医学協会の健診
- ⑪ 会員履歴カード
- ⑫ 生涯教育講座開催について
- ⑬ 新入会員について
- ⑭ その他

○○○○○ 編 集

- 季節的にも野や山も花々が咲き乱れ、初夏の侯は四季の中でも華やいだ季節と思われます。
- 7月 6 日に行われた郡医師会総会を中心で締めてみました。
各部会報告の中で、今後の行事予定なども多々ありましたが、「いわて医報」その他の案内を見ながら積極的に行事に参加してみてはいかがでしょうか。学術講演では岩手大整形外科阿部正隆教授の「胸廓出口症候群」はその道の第1人者だけあって非常にわかり易い、他科領域の方々も日常遭遇する患者の一つではないかと思われます。今まで他の病名で扱われていたものがこの分類に入るのかなといった印象を強く受けました。
- 岩手町で最近 5 年間に発見された悪性新生物について県立沼宮内病院の渡辺先生からの貴重な報告があった。疾患は多岐にわたっているが、大腸癌、胃癌が毎年多く発見されている。平成 2 年度より実施している町

後記 ○○○○○

- の大腸集団検診の検診システムが多くの方々の協力により円滑に進行した結果だろうと結んでいます。今後、尚一層の普及活動に努めてほしいと思います。
- 郡医師会ゴルフ大会も第 5 回目を迎えました。今シーズンますます好調の土谷正彦先生がベスグロ優勝でした。これからの大會(IBC cup、県医師会大会など)での活躍を期待します。秋も行われる予定です。ゴルフ爱好者は多数参加して下さい。
 - 零石町の高橋先生からは表紙写真として青森県へのドライブの道すがら発見された不思議な宝物(?)について寄稿していただきました。随想についてもいつもありがとうございます。感謝、感謝！
 - 総会のあとの懇親会には玉山村の秋浜晃先生が国保医療に永年貢献された功労にて厚生大臣表彰を受賞され、その祝賀会も兼ねて行われました。
 - 「おらほの先生」は都合により休載します。
(M. S 記)